人口と世帯
56.3.1現在
（前月比）
男 5,866人（＋3）
女 6,225人（－4）
計12,091人（－1）
世帯数2,811（＋2）

広報くにみ

発行／国見町役場
編集／企画課
福島県伊達郡国見町
大字藤田字一丁田二
2／1〒969－17
電話藤田（024585）2111(代)
昭和56年3月15日
No. 93

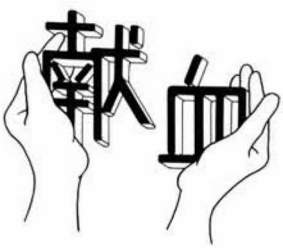
希望を胸に、県北中の卒業式

「先生、お世話になりました」
「元気でがんばれよ――」。
3月14日、県北中学校の卒業式が行われ、184人が学び舎を巣立った。
この日はあいにくの冷たい雨だったが、後輩のブラスバンドクラブの演奏するほたるの光が流れるなか、先生方、在校生、父兄らの見送りを受けて校舎をあとにする。卒業生たちは一人一人、それぞれの感慨を胸に別れを惜しんでいた。

おもな内容

'81 3月

○健康な血を献血に……2～3
○明るい社会募集作文……4
○あの人この人……5
――吉田義正さん――
○農業センサスの結果から……6～7
○国保被保険者証が書き替えに……8
○フリーバス運行……9
○公民館だより……10



あなたは　どう　思っていますか

献血の重要性はだれもが知っています。だが、いざ自分が、となると、最初はやはり二の足を踏みます。「あんなに血を採って大丈夫だろうか」「注射針に弱くて…」または「自分はいつも健康だから血なんて関係ない」などの声も聞かれます。しかし、その反面では事故や手術のため急に血液が必要となり、ほんとうに困ってしまった話も少なくありません。

献血――それは人間がお互い助け合いの精神によって、血液を必要とする人のために無償で自分の血液を提供することです。そして、健康のよろこびでもあります。

血液が現代の科学をもってさえ人工的につくれない以上、献血の重要性はますます増大していくことでしょう。

国見町は下から十一番め？

わが町には「献血友の会」があり、町の保健課を中心に献血運動を展開してきました。おもに日赤の献血車によるもので、年三回の来町の際には、友の会会員や町の事業所の協力で、確実な成果をあげています。（下表参照）

しかし、伸びてはいるものの県全体では九〇市町村中下から十一番（昭和54年度）です。

献血友の会とは

献血友の会とは、いつ、どこでだれが必要になるかわからない不慮の輸血に備えるため、みんなで献血し合い、助け合っていこうとする組織です。

友の会に入ると、会員や家族が輸血を必要とするときは優先的に血液を受けることができます。

わが町では昭和四十七年四月に発足。現在の会員数五百四十名、昨年はのべ二百九十四人が献血に協力されました。

献血は人を助けるとともに、自分の健康の証（あかし）ともいえます。健康な血を献血に――毎日を安心して暮らすためにも、友の会に入り、すすんで献血に協力したいものです。

今後の問題点

献血がもっと普及していくにはどうしたらよいか――今後の課題として、何回か献血経験のある人からの意見を拾ってみました。

①町の献血友の会の充実と底辺の拡大――友の会会員は五百人以上いるのだが献血する人は決まっている。会員は自覚し、献血に心がける。

②スポーツ振興会やその他の団体機関へ働きかける。

③採血にあたる人は、献血する人の身になって、親切ていねいに。

④採血時間の厳守

などが指摘されました。

国見町の献血状況

年度	献血目標	献血者数	目標達成率
47	210本	51人	24.2%
49	240	139	57.9
51	248	173	74.6
53	285	233	81.6
55	347	296	85.3

昭和55年度 献血功労者を表彰

さる二月二十一日、昭和五十五年度献血功労者の表彰式を行いました。今年度は次の五つの事業所と八人の方を表彰、町長から賞状と記念品が手渡されました。（敬称略）

表彰されたみなさん

功労事業所
○国見町農業協同組合
○国見電子株式会社
○国見ガス株式会社
○国見精機株式会社
○株式会社清水製作所

功労者
○佐々木治郎（藤田字観月台一）
○鈴木広茂（山崎字沢田三ノ二）
○半沢豊（藤田字一丁田三、三ノ四）
○斎藤規雄（徳江字二階間々一八）
○後藤京子（高城字山居二一）
○遠藤喜正（大木戸字国見山四）
○大波芳一（徳江字熊野六）
○吾妻幸二（森山字鶏町四ノ一）

献血バス来町

4月7日（火）

国見町農協前	9時30分～10時
国見町役場前	10時30分～12時
国見電子前	1時　～3時
国見精機前	3時　～4時
清水製作所	4時　～5時

献血にわたしも一言献血にわたしも一言献血にわたしも一言

佐藤幸夫さん　40歳

清水製作所工場長
（石母田字上野九九）

二年ほど前、会社に献血バスが来るようになってから始めました。一番必要性を感じたのは、おじが病気で血が止まらなくなったとき、そして、新潟にいる母も、運よく使わせてもらいました。そんな自分の経験から、従業員にも、いつ、何があるかわからないから、できる限り協力しようと呼びかけています。

うちの会社では献血した人は帰っていいことにしているのですが、そんなことも理由になるのか、みんな積極的に協力しているようです。もちろん、みんなが責任のある仕事をしているのでたいへんなのですが、これも助け合ってやっています。また、家内にもすすめているのだが、これが血がうすくて採れない。来る前はレバーを食べたりしていますが特効薬にはならず、やはり日頃の食事と健康が、いちばん大切だと思っています。

高橋政味さん　40歳

国見ガス常務
（藤田字町尻一二七ノ一）

きっかけといってもとくにないのですが、おかげさまで健康には自信があるから、自分にできることをやっているだけです。

この事社会のなかで、いつ必要になるかわからないし、血液がつくれない以上、お互いに助け合うのは人間としてあたりまえだと思いますよ。したくてもできない人もいるのですから。

ただ、献血しないというには、血を採るということに悪い先入観があって、恐しいと思っている人もいるのではないか。献血は体に何ら差しつかえないということをもっと多くの人に知ってもらえればいいですね。それと、献血バスが来るとわかっていても一人じゃなかなか行けないので、みんなで誘い合って行けばいいと思います。

献血にわたしも一言献血にわたしも一言献血にわたしも一言献血にわたしも一言献血にわたしも一言

佐々木治郎さん　56歳

そろばん塾経営
（藤田字観月台一）

私は戦時中マラリアにかかり、自分の血が汚れているような気がして差しひかえていました。だがある時、医者に、マラリアは十年以上たてば自然となくなると聞いて献血バスが来たとき思いきって行ったわけです。心配していた病気は検査するから大丈夫といわれ、また看護婦さんも親切で気持が落ちつき、安心して採血してもらうことができました。それからはずっと続けており、自分の健康のバロメーターとして今では次回が待ちどおしいほどです。

私も何かとみなさまにお世話になることもあり、自分にできる少しばかりの社会奉仕だと思っています。

そのほか感じることなのですが、職場から献血に来られる人のために、待つ時間がなるべく少なくなれば、と思います。

赤坂はるいさん　32歳

国見電子勤務
（内谷字西脇四三）

最初に献血したのはいつだったかしら。実家で血液をさがしていて、そのとき献血したのが初めてでした。それからは、家族のことも考えて何かあると困ると思い、できるだけ献血しておこうと心がけてきました。

もちろん献血バスが来てくれるからできるのですけれど。

初めはどんなふうなのかわからないのでこわかったけれど、慣れると何でもなくなるものですね。血が薄くて採れない人もいるようだけど私はいつもだいじょうぶ。食事もごく普通です。

これからもできる限りやりたいと思います。それから、ちょっと思うのですが、献血の回数がわかるよう手帳の内容を教えてもらえるといいのですが。

献血ありがとう

2月14日の献血者

（敬称略）

（国見電子）
横山トヨ子　池田和子　高橋子　渡辺加津子　菊地徳春　佐藤善美　村上
浮一　佐々木博志　高橋俊　菊地恵子　新
田栗輔　片平マスエ　源辺加津子　朽木幸子　赤坂
阿部昭子　菊地春恵　吉田喜久子　篠田国枝子　大
佐久間浩美　吉田ハル子　高橋三代子
るい　後藤ウメ子　遠藤ハル子　高橋三代子
竹フネ　志賀薫子　菅野フミ　吉田洋子
斎藤登美子　宍戸キセ　蓬田ツヤ　武田米子
鈴木京子
（国見精機）
松浦文一　阿部明子　高野忠和
石川定良　泰仲子　中木勝男　宮
崎庄次　赤坂晃　泰英之　反田キ
トモ　横山フク　斎藤敏枝　野村
ミイ　武田良子　佐々木三枝子
近野キク　半沢　弘　上田米子
（国見町農協）
宝井市子　松浦英夫　宍戸敏子
熊坂文男　斎藤靖子　佐藤力　斎
藤トヨ　斎藤友子　小池幸吉　松
浦新一郎　佐藤福太郎
（国見ガス）
高橋政味　鈴木広茂　大塚和男
木村博良　八巻千代子　谷口昭子
（清水製作所）
松浦金蔵　石井紀夫　桑島敏子
武田光男　佐藤幸夫
（役場）
遠藤喜正　後藤京子　佐野功　安
田博三　菅野信朗
（一般協力）
朽木好秋　佐々木治郎　森林喜助
半沢豊　松浦惣一　徳江博典　斎
藤規雄　樋口馨　大波洋三　加賀
マサ子　後藤忠一　斎藤政利　斎
藤キヨ　佐久間敏雄　吉田愛子
菊地富子　氏家長吉　春日和光
安孫子正　鈴木ヨシ　菊地信七
本多ミドリ　鈴木洋子　斎藤松雄
エ　高橋力　内村忠太郎　安積トシ
鈴木英行　松浦稔　八島健一
菅野昭雄　阿部洋一　蓬田アサ
遠藤豊和　斎藤幸利　広居重夫
飛月辰也　阿部陽子　吉田とき子
菊地玲子　菊地智　佐
藤幸輔　国分松吉　大和田紀夫
松浦市太郎　佐久間ツヤ子　鈴木
百合子　八島富一　八島和子
浦ミツ　伊藤芳子　松浦正明　佐
藤光信　賀藤幸一　松田ツヤ子
稲村けい子　本田愛子　村上赫次
宍戸隆一　大津義隆　大
大津森治　秦義宏　隆　野
村ヨシ子　佐野周八　木村正義

明るい社会募集作文 ③

交通事故を防ぐには

小坂小　6年
鴨田信子

交通事故を防ぐには、まずわたしたち一人一人が、交通ルールをよく守って、事故にあわないように気をつけるのが一番だと思います。

でも、交通ルールをいちいち守るのはめんどうくさいとか、今度だけならだいじょうぶだろうなどと考えて油断する人があんがい多いんではないかと思います。

たとえば、信号が赤なのに青になるまで待っていられなくて飛び出していったり、この道路は、車がたまにしかこないからだいじょうぶと思って、左右をよく確認しないで飛び出したりということが交通事故につながると思います。自分の油断や不注意から、事故にあって命をおとしたり、幸い命は助かったとしても足や手を失ったり、顔にきずができて、それが一生残ってしまったらとりかえしがつきません。

事故にあった人ばかりでなく、家族や周囲の人たちにも心配や迷わくをかけることになります。交通事故にあってから、あのときよく左右を確認しておけばよかったのになあと後かいしてもはじまりません。

だから、おまわりさんや家の人、それから先生のいうことをすなおに聞いて、一人一人がそれを守れば、交通事故は防げると思います。私たちの心がけにかかっていると思います。

助け合い

藤田小　4年
平佳代

これは五十五年の春休みがはじまるころでした。今まで平和だったわが家が、とつぜんさわがしくなりました。

それは、父と母がかぜをひいたからでした。はじめ、母がかぜをひいたあまり、五日間ねこんでしまいました。

外はまだ寒かったころでした。学校ももうすぐ春休みです。わたしにとってはとてもうれしい春休みだと思っていました。でも母が病気になり、いっしょうけんめいみんなとかんびょうしました。父は、車で買い物や薬をとりに行きました。

母がやっとなおったと思ったら今度は父がかぜにかかりました。父は母のかんびょうでつかれてかぜをひいたようです。そのころはもう春休みがはじまっていました。ので、私は二人におかずやおかゆを作ってやりました。父と母はよろこんで食べてくれました。

母がだいたいよくなると、「ごはんをつくるのは私がやるから、せんたくやそうじをやって」とたのまれました。

いっしょうけんめいに仕事を手伝いました。歩いておつかいにも行きました。妹もときには「私も手伝いする」と言って、せんたくやそうじをやってくれました。

私は父と母が早くなおってくれないかなあと思いました。

でも父と母から「病気をしたら、すこし大人になったね」とほめられてうれしくなりました。

私は、家族五人そろって病気にもかからず助け合って生きていくことが、どんなにうれしいことかわかりました。みんなそろった家族がとても幸せだと思いました。父や母のいない人はとてもかわいそうだと思いました。

これからも、みんな明るくけんこうで心ゆたかで、わらいのある生活をしたいと思いました。

新入学児童の交通教室

親子で守ろう交通ルール

新学期まであとわずか。新入学児童をお持ちのご家庭では、期待に胸をふくらませながら入学の準備になにかとお忙しいことでしょう。

お子さんの入学にあたって忘れてならないことの一つに、交通ルールのしつけがあります。

いままでは、比較的家の近所で遊んでいた子どもたちも、学校に通うようになると、その行き帰りをはじめ、新しい友だちもできるなどして、行動範囲はしだいに広がっていきます。

ここで気をつけなければならないのが交通事故です。

毎年、この時期は、新入学児童の交通事故が目立ちます。入学を前に、正しい交通ルールについていま一度親子でよく話し合いましょう。

「飛び出し」による事故が七割

子どもの事故で一番多いのは、いわゆる「飛び出し」です。昭和五十四年の幼児と小学生の交通事故のうち六六%、つまり全体の七割近くが路地から大通りなどへの「飛び出し」が原因となっています。

小学生の「飛び出し」による事故は、一～三年生が四～六年生に比べて約四倍にものぼっており、低学年ほど危険が多いことを物語っています。

「飛び出し」に次いで事故件数の多いのは「横断中の事故」で、停車している車や走っている車の直前直後の横断、信号無視、路上で遊んでいて――などといっています。十分気をつけてください。

あの人この人 ㊸

有機農業に取り組んでいる
吉田義正さん

有機農業を始めて十三年、「まだ完成したとはいえないが、ようやく方向はつかみました。苦しくても途中でやめないでほんとうによかった」。長かった道のりを振り返りながら、吉田さんは感慨もひとしおである。

有機農業とは――。「日本ほど自然の環境にめぐまれている国はないと思う。いたるところに水があり、緑があり、生物がいる。これらを有効に生かし、自然のしくみにかなった農業、これが有機農業の目ざすところです」。

それでは、有機農業ではないふつうの農業はどうなのか。

「例えば、農業の敵（かたき）といわれている害虫や雑草。これらはすぐ農薬で殺してしまうが、それでは大切な益虫や微生物まで死んでしまう。植物には〝適者生存〟の法則があり、気候と風土に適し、栽培方法が間違っていなければ病気は防げるものです。安易に使われている化学肥料や除草剤がどれだけ土をだめにしているか……」。有機農業は、細やかに自然を観察する心、そして、忍耐強い手作業を必要とする。

吉田さんと有機農業との出会いは昭和三十八年にさかのぼる。幼い頃から病弱で「丈夫な体」にやみがたい願望を抱いていた少年はふとしたことで読んだ一冊の本に心をうばわれた。それは、食物によって人間を変えることができるということであった。「これだ、と思った。食物は命のもと、その食物を生産するのが農業だから、毒物を使うのはよくない」と有機農法に取り組んだ。

現在の経営規模は田畑一・三ha、鶏七〇羽、牛一頭、やぎ二頭。畑は野菜で、ねぎ、玉ねぎ、かぼちゃ、すいか、とうもろこし、馬れいしょ、人参、里いも、しょうが、いんげん、枝豆、さつまいも、なすなど、その他自家用に大麦、小麦、ソバ、大豆、小豆、ごま、菜種など、あらゆる種類を栽培している。

化学肥料や農薬、除草剤は一切使っていない。だから〝安心して食べられる〟〝味がよい〟と固定客も多く、福島市などからも求めにくるという。おもな働き手は義正さん夫婦だが、父親の重兵衛さんも義正さんに勝るとも劣らない有機農業の推進者で、高齢ながらも元気で小売を担当している。

「有機農業で最も大切なのは堆肥づくりです。このよしあしがすべてを左右するといってもいいくらいで、それだけにむずかしい。家畜、積む場所、材料、季節などによって作り方が違ってきますから――」。初めは仲間も指導者もなく、手さぐりからの出発。暗中模索と試行錯誤の繰り返しであった。この課程では、昭和五十年の中国訪問で学んだ農業者みずからの研究する態度が生かされている。

現在は、有機農業の仲間が県内にも増えはじめ、昭和五十年には『県北有機農業研究会』が発足、県全体の組織づくりも、今、着々と進められている。

消費者はようやく自然食の重要性を認識し始め、関心のある人が増えている。有機農業も徐々に脚光を浴びつつある。「だが、個人の力では限界があります。だから、自然で安全な食物を求める者と、有機農業を志す者たちが一体化されるような体制づくりがぜひとも必要なのですが……」

朴訥（ぼくとつ）な話のなかに自然をいつくしみ、農業を愛する熱い想いが伝わってくる。このような人たちがいる限り、日本はだいじょうぶ、そんな思いがした。

昭和十九年四月生まれ。山崎字舘十四番地。

これは便利！

藤田病院に現金自動支払機

福島信用金庫では、入院患者や通院者の便宜をはかるため、公立藤田病院内に現金自動支払機を設置、二月二十三日スタートしました。

これは、カード一枚で現金が引き出せるもので、同信用金庫では第一号。近くにマーケットもあり人の出入りが多いことからサービス面の向上をめざして今回の開設となりました。

使用時間は平日が午前九時から午後五時まで、土曜日が午前九時から午後三時までとなっています。

はみ出し部分は伐採を！

●境界線を越える部分は伐採をお願いします。見通しが悪く、たいへん危険です。

千五百戸台を割った農家数

一九八〇年 世界農林業センサス結果

昭和五十五年二月一日で実施された世界農林業センサスの結果がまとまったのでその概要をお知らせします。

なお農家とは経営耕地が十アール以上、または十アール未満でも調査日前一年間の農産物総販売額が十万円以上あった世帯をいいます。

◇農家数

昭和五十五年二月一日現在の農家数は千四百九十一戸となり昭和五十年の前回より四十戸減少しました。これは、町村合併以来減少し続け昭和四十五年に初めて千六百戸台を割ってさらに今回では千五百戸台を下回ったものです。しかし減少率は二・九%で四十五～五十年の四・一%に比べ低下しており全国的傾向と同様です。

専兼業別では、専業農家が一九%減少し百七十五戸、農業を主とする第一種兼業農家が二〇%減少して四百三十九戸、兼業を主とする第二種兼業農家が十五%増加して八百七十七戸となって専業農家が減少、兼業農家数は前回同数でした。このため、構成比では概数で専業、第一種兼業、第二種兼業の比が一対三対六（四十五年、二対四対四）となり、兼業化へ持に第二種兼業化への移行が進んでいます。

◇農家人口と農業従事者

農家人口は五十年以降の五年間に五・一%減少し七千二百二十三人となりましたが減少率は低下の傾向にあり、総人口に占める割合も六十%台を維持しています。

農家人口のうち十六歳以上の農業従事者で自家農業に主に従事した農業就業人口は二千五百二十三人で前回比で八・六%減少ですがその減少度合いは低下しています。他産業就業人口が国では今回上回りましたが当町では農業就業人口が四四%他産業就業人口が三九%で県と同様農業就業人口が上回っています。

また農業就業人口のうち、ふだん仕事を主とする者（基幹的農業従事者）は前回と比べ二三%の減少で農業就業人口の五九%でした。男女別構成では男子が六二%（五十年五八%）、女子三八%（同四二%）で男子の割合が高まっています。また、年齢構成では六十歳以上が五十年の二七%から三一%に高まっています。

農業従事日数別の農業従事者数では、年間百五十日以上の従事者（農業専従者）がこの五年間に二八%減少し千二百五十一人となり農業従事者数に占める割合は五十年の四二%から三一%に低下しています。農業専従者の年齢構成は四十～五十代が六〇%以上を占め、一方二十代以下が七%と今回初めて一〇%台を割りました。

◇兼業従事者

十六歳以上の農家世帯員で就業している者のうち農業のみに従事している以外のいわゆる兼業従事者は二千六百十八人ですが、伸び率は減少傾向にあります。就業者全体に占める割合は五五%で五十年の五四%から一%高まったのみです。兼業種別従事者では恒常的勤務者が前回より伸びてその外の「出かせぎ、日雇、臨時雇」、自営業兼業とも減少しています。そのためそれらの構成比は六対三対一の割合で恒常的勤務者の割合が高まりました。

表一　専兼業別農家数

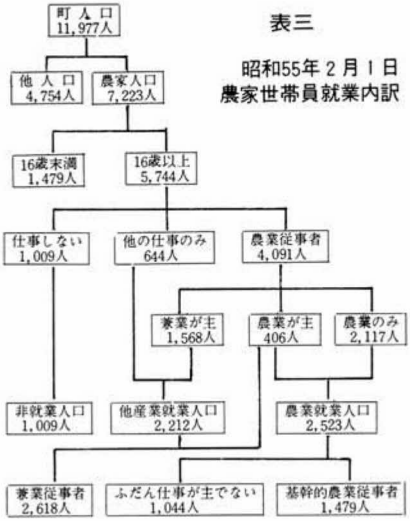
区分		総農家数	専業農家	兼業農家 計	兼業農家 第1種兼業	兼業農家 第2種兼業
実数(戸)	昭40	1,606	354	1,252	773	479
	45	1,596	284	1,312	676	636
	50	1,531	215	1,316	550	766
	55	1,491	175	1,316	439	877
増減率(%)	昭45/40	△ 0.6	△19.8	4.8	△12.5	32.8
	50/45	△ 4.1	△24.3	0.3	△18.6	20.4
	55/50	△ 2.6	△18.6	0.0	△20.2	14.5
構成比(%)	昭40	100.0	22.0	78.0	48.2	29.8
	45	100.0	17.8	82.2	42.4	39.8
	50	100.0	14.0	86.0	35.9	50.1
	55	100.0	11.7	88.3	29.4	58.9

表二　農家世帯員の就業状態

区分		16歳以上の世帯員数	就業人口 計	就業人口 農業就業人口	就業人口 農業就業人口 基幹的農業従事者	就業人口 他産業就業人口	非就業人口
実数(人)	昭45	6,317	5,343	3,491	2,676	1,852	974
	50	5,966	4,794	2,760	1,912	2,034	1,172
	55	5,744	4,735	2,523	1,479	2,212	1,009
増減率(%)	昭50/45	△ 5.9	△10.3	△20.9	△28.6	9.8	20.3
	55/50	△ 3.7	△ 1.2	△ 8.6	△22.6	8.8	△13.9
構成比(%)	昭45	100.0	84.6	55.3	50.1	29.3	15.4
	50	100.0	80.4	46.3	32.0	34.1	19.6
	55	100.0	82.4	43.9	25.7	38.5	17.6

表三

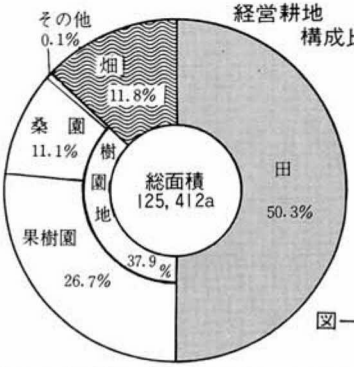
昭和55年2月1日
農家世帯員就業内訳



◇経営耕地面積

経営耕地面積は五十年以降五年間に二四%減少し千二百五十四・二ヘクタールでした。そのうち田畑が二〇%台の減少で果樹園のみが増加（二〇・八%）しています。果樹園はりんご栽培面積が減少した外はもも、かきが大きく増加しもの果樹園全体に占める割合は六四%に高まっています。

面積規模別農家数では〇・三ヘクタール未満と二ヘクタール以上の農家が増加しています。構成比では〇・五ヘクタール未満の農家は全体の三二%、〇・五～一ヘクタール未満が三三%、一～二ヘクタール未満が三三%、二ヘクタール以上が三・二%で前回とほとんど変っていません。また一戸当りの面積は八四アールでこれも前回と同様でした。なお福島県の平均は一・一六ヘクタールです。



図一

◇農業経営の部門別農家数

農産物販売金額一位の部門別農家数は稲、果樹類、養蚕、の順位ですが、前回と比較すると稲が二三%減少し六百二十戸となり果樹類が四一%増加し五百三十一戸です。農産物販売総農家数に対する割合は稲が四五%、果樹類が三八%となりました。

また農産物販売金額一位の部門の金額が八割以上を占める農家数（単一経営農家）は農産物販売農家数の四四%、六割以上八割未満の準単一的複合経営農家は三六%六割以下の複合経営農家は二〇%です。五十年には主たる農産物販売額以上の農家は七八%でしたが今回は八〇%と単一的経営農家の率が高まっています。その中心は稲作です。

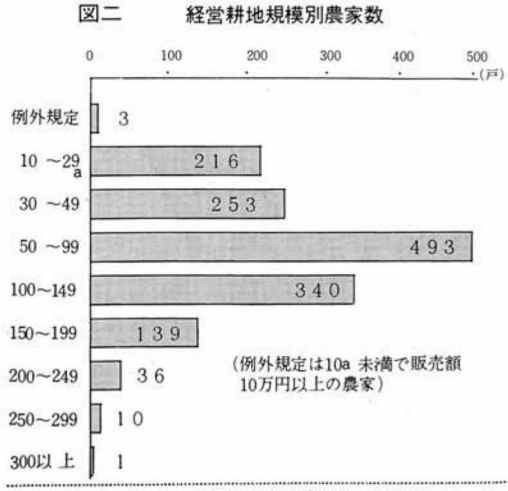
なお、ほ場整備などのため田の面積に対する稲の収穫面積の割合が七五%と低下したので、稲作関係の数値が従来の推移とは違うものと思われます。

◇家畜・養蚕

家畜の飼養農家数は前回に比べいずれも減少となっていますが、特に乳用牛（△五五%）と採卵鶏（△七二%）の農家が減少しています。一方飼養頭羽数は乳用牛以外増加しているので一戸当りの頭羽数は増加し多頭数飼育の傾向にあります。

養蚕農家は三百十六戸で前回と比べ八十三戸（△二一%）の減少で掃立卵量も二四%の減少となりました。また、一戸当りでは〇・五箱減少し一〇・四箱となっています。

図二　経営耕地規模別農家数



◇農用機械

動力防除機を除いて農用機械の普及は高まり、特に動力田植機が前回調査と比べ二倍に、バインダーは一・五倍に伸びています。そのため動力耕うん機の普及率は八三%、動力田植機械が三〇%、バインダーは四八%と大きく高まっていますが、県全体よりは低い結果です。

○以上今回の調査結果は八〇年代の当町農業を考える場合の基礎資料を提供したもので、これら実状を踏まえて将来の方向を定めてゆく必要があるでしょう。

くわしい資料は企画課へどうぞ。

保険証が新しくなります

―国民健康保険―

今年は国保被保険者証が新しくなる年です。今使っている被保険者証は三月三十一日で期限がきれますので、十分ご注意ください。

更新の方法は、各部落担当の保健協力員がまとめて役場に持参して行いますので、期日までに国保被保険者証を協力員宅まで届けてください。

㊫㊥被保険者証の交付を受けている方は、早めに回収していっしょに届けてください。

なお、㊫㊥被保険者証を引き続き必要な方は、四月一日以降、新しい被保険者証と印かん（㊫の方は「在学証明証」も）を持参のうえ、役場国保係に申請してください。

協力員宅まで届ける月日

3月23日	森江野、大枝
3月24日	藤田、山崎
3月25日	小坂、大木戸 石母田

〔保険証の正しい取扱い方〕

①内容を確かめておく

交付されたら、被保険者の氏名などにまちがいないかどうか確かめてください。

②必ず手元に保管する

お医者さんの診療が済んだら、必ず手元に保管するようにしましょう。

③資格がなくなったら返す

他市町村への転出や職場の健康保険に入ったときは、すぐに役場に届けてください。

④なくしたり破ったりしたとき

なくしたり、破って使えなくなったときは、すぐ役場に届けて再交付を受けてください。元の保険証があった場合は返さなければなりません。

⑤被保険者に異動があったとき

被保険者に異動があったとき、自分で勝手に書き直すとその保険証は無効になります。必ず役場で訂正してもらってください。

⑥もう一枚の保険証

出稼ぎ、長期旅行、あるいは修学のため他の市町村に住むときは一世帯に一枚の保険証では間に合いません。このような場合は、その被保険者のため、とくにもう一枚の保険証の交付を受けることができます。役場国保係へご相談ください。（☎2111有4165）

暦と行事

3月　弥生（やよい）

○18日・彼岸入り
○19日・ポートピア81開会式
○21日春分の日
○23日・世界気象デー
○24日・彼岸明け
○25日・電気記念日

4月　卯月（うづき）

○1日・エイプリルフール
○7日・世界保健デー
○8日・花まつり
○10日・婦人週間始まる

乗り物酔い　乗り物に酔う人は意外と多いものです。乗り物酔いは、体のバランスを感じる内耳の三半規管と前庭に、異常な刺激が加わることによって起きます。この刺激が脳に伝わり、自律神経の働きがおかしくなるわけです。ところが「自分は乗り物に弱い」と思っていると本当に酔ってしまうし「薬をのんだから大丈夫」という自己暗示にかけるとかなりの効果があるといわれています。気の持ち方ということでしょうか。

保健協力員（母子保健推進員）

部落名	氏名	部落名	氏名	部落名	氏名
駅前	黒田キヨ	源宗山西	高橋道子	第9	大波アキ
錦町	新妻光枝	源宗山北	黒岩マサ子	第10	菊地昌子
大町南	野小チヨノ子	大坂	高橋タケ子	第11	菊地智
大町北	高橋喜代子	耕谷	佐藤清子	第12	佐藤はるヨ
本町南	佐藤カツ子	小坂	後藤ハナヨ	田	高橋キミ
宮町北	奥津美子	太田川	佐藤イクヨ	寺	遠藤ミサエ
宮町東	古内モト子	前田	安藤テルヨ	城	渡辺英子
宮町東	菊地富美子	板橋	渡辺子	戸	佐藤ヨシ子
町鶏町	須田光子	泉田	横山キサ	根	阿部ツ子
上野	安田はつ子	泉田	佐藤タツ	町	阿部ヨ
石母田東	黒田イト	泉田	阿部ミ	館	菊池敦
石母田表	阿部照子	鳥谷	高橋キ	柳	小林ミ
石母田北	宍戸ミツエ	内谷	菅野ト	部	板橋セ子
石母田原	松浦良子	内東	熊野キ	部	玉手欣子
石母田西	菊地ウメ子	第1	佐久間セ	内	吉田ツギ
山崎北	菅善ミ	第2	津久田子		鈴木ヤヨ
滝山	八島キル	第3	佐久間シ		鈴木チ
山崎館	吉田ハイ	第4	広田デ		
山崎小館	吉田ヨシ	第5	寺島子		
宮前	佐藤に	第6	斎藤ヨ		
源宗山東	永井美江子	第7	八巻ル		
		第8	佐藤サ		
			佐野裕子		

心配ごと相談日

場所：役場二階相談室
（東側入口よりお入り下さい）
時間：9時～12時

こまったことや心配ごとがありましたらお気軽にご相談下さい。秘密は絶対に守ります。

〔相談員〕

3月25日（水）佐久間巌
橋ヤヨイ

4月4日（土）樋口弘
黒田ヒロ

4月15日（水）菊地平助
安藤トヨ

フリーバス運行

乗りたいときは手をあげて

3月31日から「国見役場～東大枝」間で

福島交通では、三月三十一日から、どこでも乗り降りできるフリーバスを運行することになりました。区間は、梁川・藤田線の「国見役場～東大枝」で、この間なら乗り降りが自由です。ただし、次の点にご注意ください。

①乗りたいときは、道路左側の安全な場所で早めに手をあげて合図してください。

②降りるときは、早めに降り場所（希望の場所のおおむね五十メートル手前で）降車ボタンを押し、バスが停まってから席を立つようにしてください。

③フリー区間内であっても、交差点、急な曲り角、見通しの悪いところ、他の交通の妨げになるところでの乗り降りはご遠慮ください。

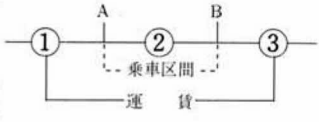
④停留所が近くにある場合は、停留所をご利用ください。

⑤道路、交通の状況により多少前後して停車する場合もあります。

運賃はどうなるの？

運賃は、乗車する区間の外側の最も近い停留所間の運賃になります。

例えばAからBまでの乗車のときは、①から③までの運賃となります。



そろそろ転勤のシーズン

住居移転の際は各機関への届出も忘れずに！

暖い日差しの訪れとともに、三月、四月ともなると転勤、就職、入学などのシーズンを迎えます。

ところで、この転勤などに必然的に伴うのが引越しですが、これらあわただしい引越しのなかに忘れがちなのが、各機関への住居移転届けです。

役場住民課はもちろんのこと、水道課、郵便局、電力会社、ガス会社、電話局、またテレビをお持ちの方はNHK（電話またははがきでも結構です）への連絡が必要となります。

このようなことはあとでなどと考え、引越ししてしまうと、ついついおっくうになってしまうものです。

どうぞ住居移転の際は、各機関への連絡も忘れずにご協力ください。

なお、NHKの連絡先は次のとおりです。

〒九六〇
福島市北五老内町一―五
NHK福島放送局
☎三五―一一九一

戸籍の窓口

（2月受付分）

出生おめでとうございます

保護者	子の名	部落
遠藤　久雄	恵　子	町　東
中野　孝雄	秀　俊	泉　田　下
大波　勇一	克　次	第　田　九上
宮崎　重年	和　子	泉　田　南
大和田健一	明日美	宮　前
鈴木　貞雄	博　之	駅　田　川
林　郁夫	麻衣子	太　田　前
奥山　隆夫	和　典	駅　前
佐藤　清二	芙葵子	内　谷　東
鈴木　富男	恵理子	築　館
加藤　達男	郁　美	耕　谷
中野　一雄	祐　嗣	鶏　町
鈴木　文夫	有希子	川　内

ご結婚おめでとうございます

氏名		部落（前住所）
樋口	廣己	町　東市
渡辺	京子	福　島
宍戸	節夫	泉　田　下
佐藤	和子	米　沢　市
鈴木	一男	川　内
後藤	キミ子	太　田　川
吉田	孝文	宮　町　北
小幡	昌子	〃
宍戸	明	源宗山西
松浦	由起子	石母田原
八巻	仁	徳　江　北
丹野	厚子	福　島　市

おくやみ申し上げます

氏名	年齢	部落
森田　ツル	83	錦　町
若林　吉一	71	泉　田　中
菅野　代	70	内　谷　東
田鍋　水ハ	60	町　東
佐藤　弥ム	74	小　館
仲田　幸と	84	太　田　川
小林　勝ヨ	83	宮　町　北
小柴　トマ	82	原　町
菊地　末ヨ	87	大　町　南
佐藤　由ミ	60	錦　町
山田　利ス	83	駅　前
斎藤　数蔵	73	錦　町
佐久間　ア子	44	大　町　北
古川　隆	39	第　12
熊坂　男	54	大　坂
斎藤　剛イ	61	内　谷　西
	65	錦　町

善意の窓

町社会福祉協議会へ

○森田鶴治さん（藤田字堤下23ノ4）より一万円

――ハツさんのご遺志

○国見町青年学級生一同（代表佐野功さん）より一万一、六六九円

――青春祭チャリティ益金

編集日記

○住民と町のパイプ役として「広報くにみ」が発刊されてから八年になるが、それ以前は、長い間「館報くにみ」がその役割を担ってきた。ところでこの町のあゆみの記録ともいえるものを永久に残そうと「館報くにみ」の縮刷版を計画している。くわしくは後日、〝かいらん〟でお知らせするが、みなさまのお手元にもぜひ一冊おそろえいただければと思う。

○先月、県広報研究会が飯坂で催され、参加してきた。県内の広報担当者が一同に会す唯一の機会であり、昼の講義もさることながら夜の部もまた楽しみの一つ。（もちろん話題は広報のことだけです）よりよい広報紙をめざしながらも理想と現実、タテマエとホンネの狭間（はざま）の中で揺れ動く広報マン。同じ悩みを持つ者同志、旧知の友に出会ったような一日でした。

公民館だより

国見町公民館
電話 (公)2676 (有)4156

翔びたとう 限りない可能性をもとめて

青年学級で青春祭

二月二十二日、町公民館で、青年学級主催による「青春祭」を行いました。当日は天候にも恵まれ、入場者はかつてないほどの二百二十名を数えました。

この青春祭が大成功で終ることができたのは、学級生が毎晩のように集まって準備したことはむろんのこと、他の団体からのご協力、婦人学級、公民館、青年会など、みなさまのおかげだと思っております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

学級生の脚本・演出による演劇「青春日記」

青春祭は、「翔（と）びたとう、限りない可能性を求めて」をテーマに、広く、私たち国見町青年学級を広く知っていただきたいと思い、学級生の総力をあげて開催しました。

まず、のど自慢大会。これは、国見バンドの生演奏をバックに、十五組が自慢ののどを披露しました。続いてチャリティオークションです。みんなで持ち寄ったもの、婦人学級の方からの品物などを、安すぎるほどの値段で売られました。売上金一万千六百六十九円は町の社会福祉協議会へ寄付いたしました。みなさまご協力ありがとうございました。

また、ほかに各コーナーを設け、バザー、軽食・喫茶、学級の足跡、学級生の紹介なども行いました。

最後は、学級生による脚本、演出と、全部学級生の手でつくり上げた演劇「青春日記」を発表しました。今の私たちの悩み、考え、行動などを表現したものです。

この青春祭を無事終えた今、いろいろな苦労はあったが、やり遂げた満足感でいっぱいです。

学級生にとって、青春祭は人生の一つのステップにしかすぎないかもしれませんが、これからの長い人生に、何かの役に立つことと思います。

第33回 婦人週間

あらゆる分野への男女の共同参加

四月十日から、恒例の「婦人週間」が始まります。

婦人週間は、わが国で、婦人が参政権を行使した四月十日を記念して、この日に始まる一週間を女性の地位向上をめざすための特別活動として昭和二十四年に設けられたもので、今年で三十三回目を迎えました。

今年は、昭和二十一年にわが国で初めて女性が選挙の投票を行ってから三十五周年に当たり、さらに国際婦人年に続く「国連婦人の十年」の後半期に入る年でもあります。

このような意味から、今年のテーマは、昨年までの「男女の平等と婦人の社会参加をすすめる」を一歩進めて、「あらゆる分野への男女の共同参加」となっています。

あつがし俳句会

昭和五十六年二月二十八日

＊着ぶくれて寒行のごと構えけり　奥山　甲二
＊瑠璃の玉一めん散らし犬ふぐり　斎藤黄鶴楼
＊みちのくの春まだ遠き二月尽　熊田　一陽
＊生涯をこの里と決め春迎ふ　藤田　勝衛
＊物思ふペットに座り春を待つ　野村たかし
＊送り来し友の心の伊予みかん　加藤　痴仏
＊「酒は大七」白く浮き出て山笑ふ　須田　泰山
＊蕗の薹水なき川に橋かかり　佐久間山月
＊柊の門を守りて二月尽　萩原　吐絹
＊嫁ぐ娘の荷に紅梅の鉢一つ　奥山　雨田
＊ハミングに空しさまぎらす春炬燵　小野寺蒿水
＊二月尽肌つややかに庭の木々　阿部　亭司
＊熱燗の欲しき日なりき冴返る　阿部しげを
＊迎春花硝子戸越しの隅居かな　佐藤　国楓
＊冬うらら河川工夫の透る声　増田三果樹
＊雪代の道にあふれて田舎なり　高橋　涌水
＊酌む酒に盆梅の香添えにけり　渋谷　良一
＊古里の土の匂ひよ下萌ゆる　赤間はる子
＊山裾に日脚のびけり畑仕事　熊坂　きよ
＊雛古りぬにぶき痛みのひざがしら　羽賀　えい
＊ものの芽を音なくぬらす夜の雨　原田　和喜
＊蔦の輪の悠々として二月なり　高橋　仙子
＊きさらぎのうす日分け合う老いふたり　角田　昭子
＊早春や夫漁りし魚燃く　佐藤　ナツ
＊末の娘の嫁ぐ日近し迎春花　鈴木　幸子
＊母の骨亡父に並びて土恋し　森田　栄子

アーツインクニミ主催
第2回
国見町歌謡祭

後援　町教育委員会など
○とき　4月25日　午後6時30分
○ところ　町民体育館
○前売券　1,700円
○ゲスト　香坂みゆき
※問い合わせは公民館へどうぞ